

歯科症例報告

本症例報告はただの報告だけでなく、病状の発見や予防など役立つ内容も含めてお送りいたします

2020年7月

今回は3本立てでお送りします

症例報告①：～歯が欠けてしまいました～

犬 歯が欠けた場合の金属冠（メタルクラウン）による修復

症例報告②：～歯は抜いたはずなのに、歯の根っこの破片が残っている？～

猫 残根（ざんこん）が関与したと考えられる口内炎

症例報告③：～こんな乳歯は要注意～

犬 乳犬歯の晩期残存（ばんきざんぞん）が関与したと考えられる舌潰瘍

～歯が欠けてしまいました～

＜歯が欠ける（歯の破折）原因の例＞

- ・ 交通事故：車に当たった、自転車に当たったなど
- ・ ケンカ：犬同士、猫同士のケンカ
- ・ 虐待などヒトからの暴力
- ・ 床から落ちる、物に衝突するなど
- ・ ★硬い物を噛んでいるとき（犬の場合）



**圧倒的に多いのは、、、飼い主さんが
硬いものをあげたとき、噛んでるうちに受傷するケース！**

硬い物って？ 具体的にはどんなもの？？ ➡NEXTへ

硬い物？具体的にはどんなもの？

- ・ 乾燥したアキレス腱や乾燥した動物の皮 👉 想像以上に硬いんです
- ・ 骨・鹿の角・動物のヒヅメなど動物の硬い部分
- ・ 硬い歯磨き用のおもちゃ、硬い歯磨きガムなど



骨



乾燥した腱つき肉



ヒヅメ

硬いもの何でだめなんですか？

ストレス解消や、歯の汚れをとる効果が期待できるから、かじらせておいて良いんでしょう、だってそう表示されてるものもあるし、、喜んでかじってますよ、、



何でだめか？そもそもの犬や猫の歯の形に注目してみよう

<犬や猫の臼歯の形はどんな形をしているのか？>

- ・ヒトの歯と比べて臼歯が全体的に尖っていて横幅が狭い形をしており、歯との接触面積が少ない
- ・肉を引き裂くのに都合が良い形をしている、食べ物はハサミで切るように噛む（シザースバイト）
- ★**骨を砕いたり、硬いものをすり潰す形には向いていない**
- ・つまり硬いものをかじるという行為を続けると確実に歯を痛めていく

犬の上顎第四前臼歯の実際の形（特に欠けやすい歯）

尖った山のような形

横幅が狭く、縦幅が広く
細長い

外側面

内側面

咬みあう面

縦幅

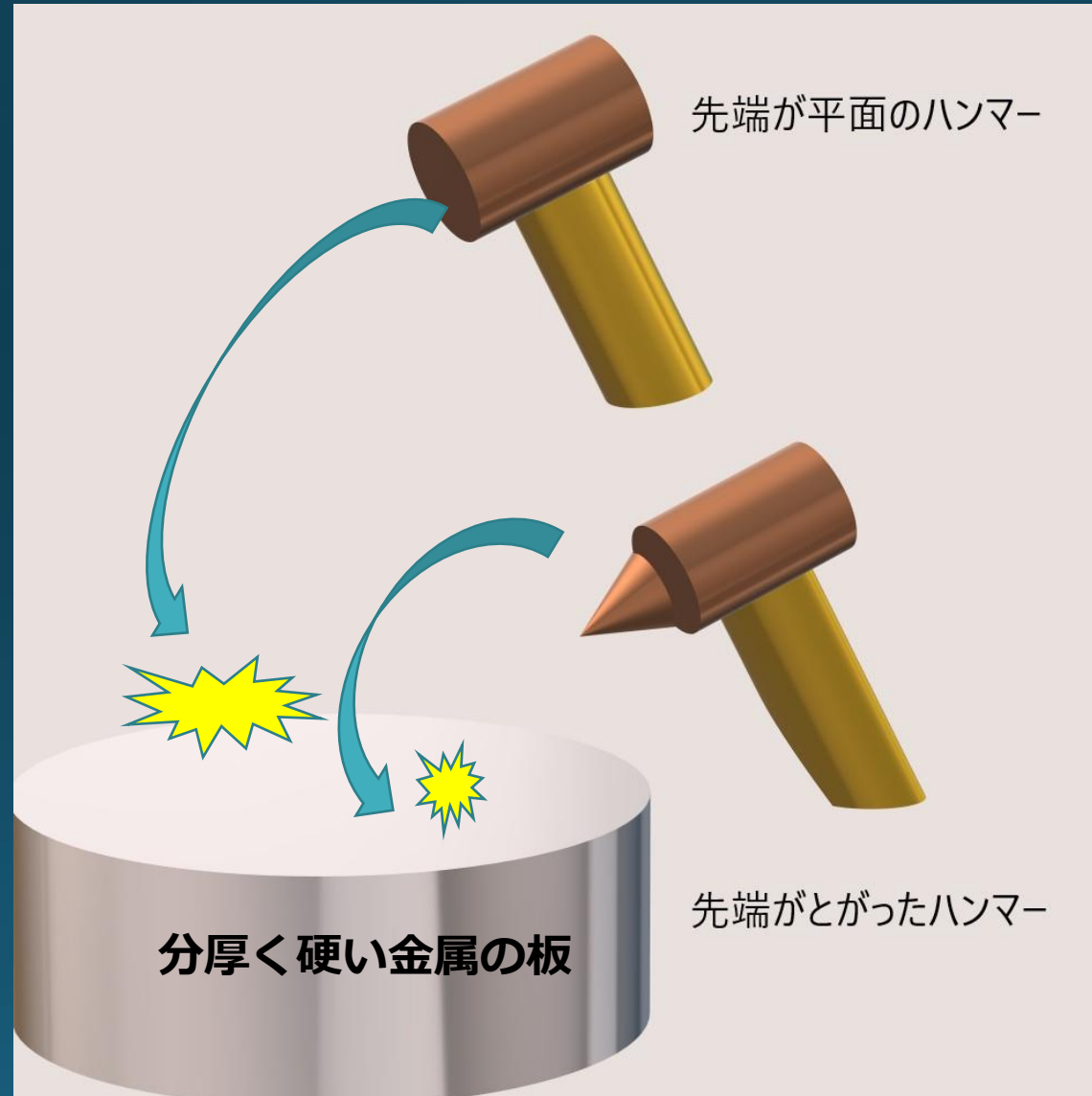
横幅



例え話 尖ったものに硬いものを当てると、

- ・ハンマー：歯
- ・金属の板：硬物
- ・ハンマーを打つときの力：咬む力

として例えると



打つ面が平面なハンマー
打つ面がとがったハンマー
それぞれで分厚い金属板を強い力でたたくと、、、、



平面では**面**で叩く力が伝わるが、
とがったものでは、**点**で力が伝わるため、より強い衝撃が加わる

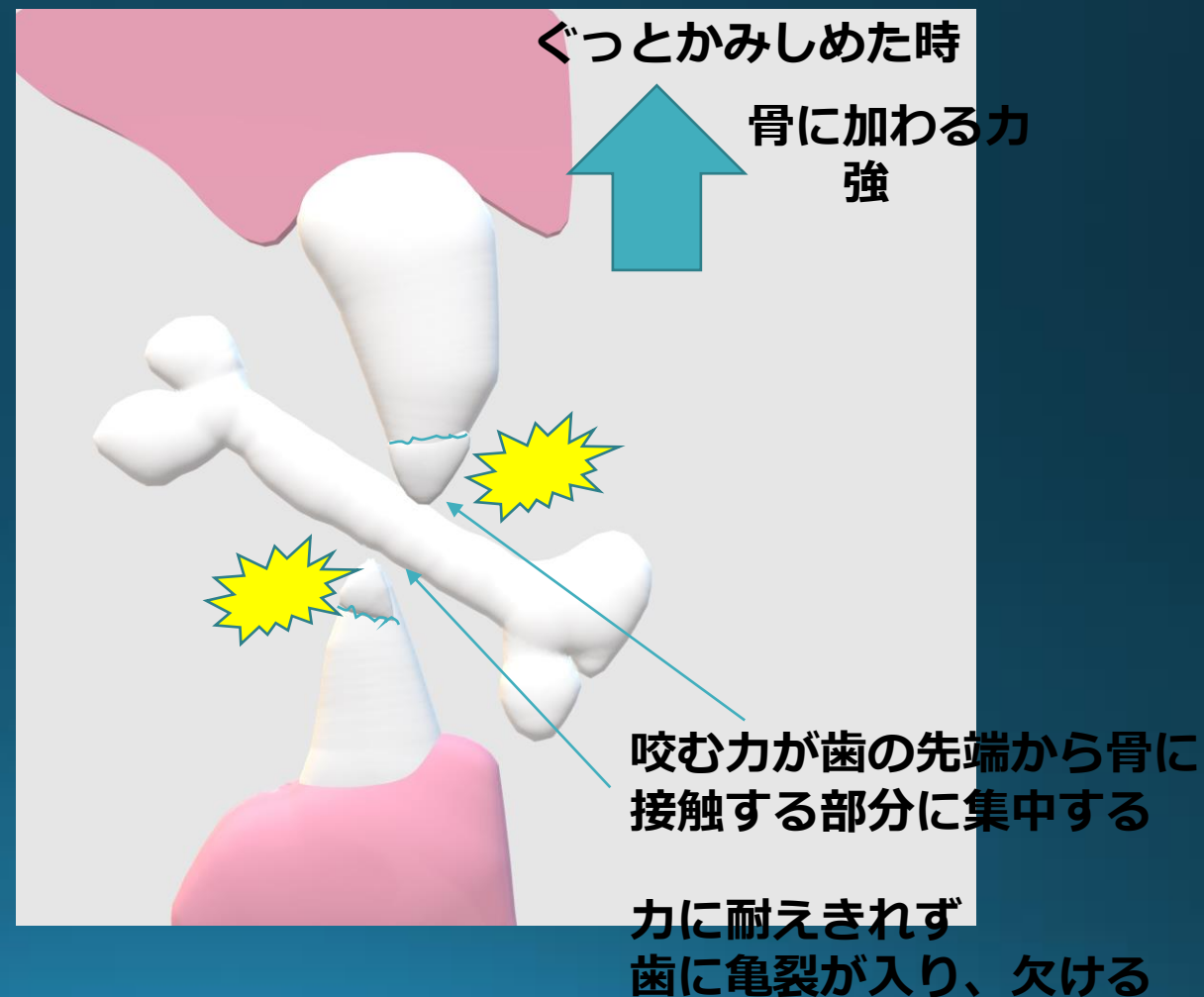
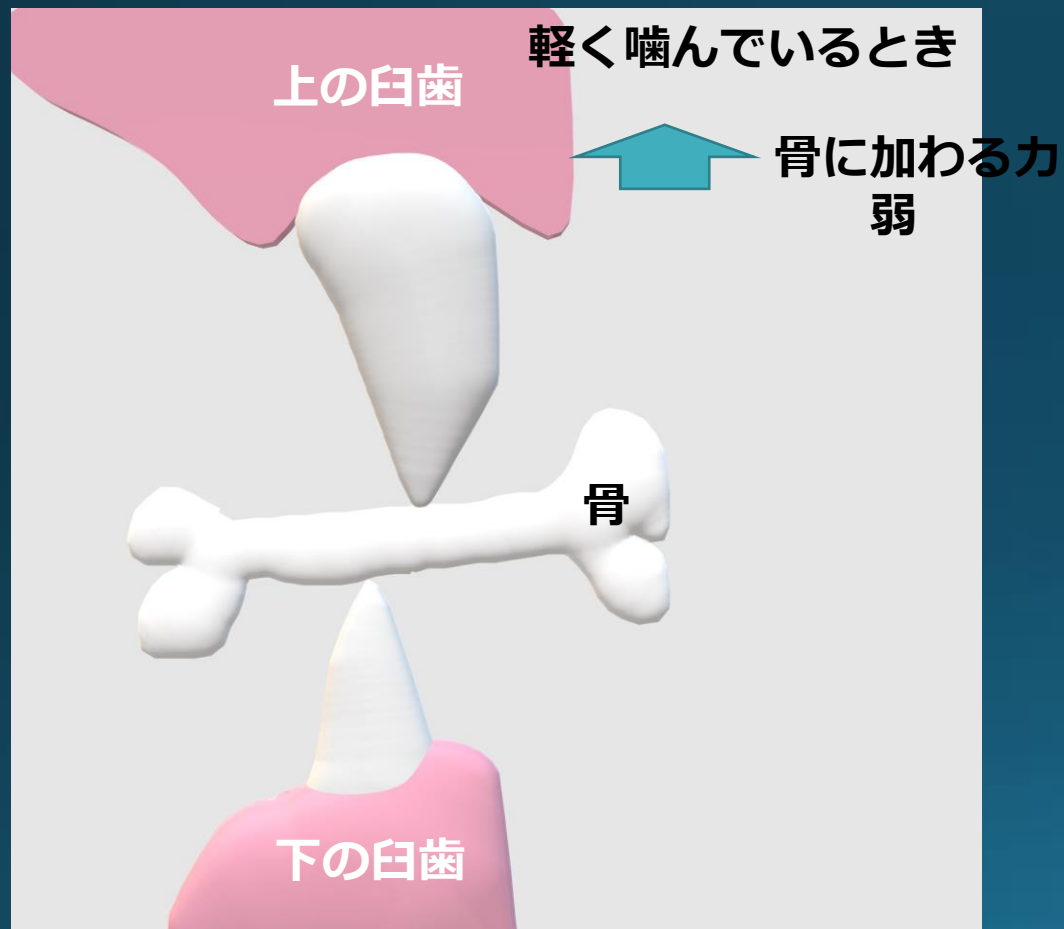


衝撃を強く受ける部分が
疲労していく



先端がとがっているハンマー
が先に弱って、欠けたり変形する

硬いもので歯が欠けるイメージ



ここがポイント！！

アドバイス)

動物に与えるもので歯のことを考えるならば、人間の感覚で考えましょう

★これをかじったり、本気で咬むと自分だったら歯が欠ける
ヒビが入るだろうなと思うものは絶対に与えないこと！！

★歯のことを考えるならば、指で押したときに**しっかり変形する**もの、あるいは弾力性のある
ものを選ぶようにしてください！
硬さで歯が勝てるものを選びましょう、少しでも欠けるリスクのあるものは避ける！

★市販されている歯磨きガム、おもちゃにおいても、指で押しても変形しないほどカチカチに
硬いものがありますので、そういったものは避けるのが無難です！

余談：ちなみに人間の患者さんの場合

私の経験から

歯が割れる、欠けた原因として多いのは、**虫歯**がある場合（歯が脆くなった状態）で、硬いものや弾力性のあるものを噛んだときによくみられます

しかし、**虫歯がない歯（脆くない歯）**なのにいろいろな歯が欠けたり、割れたり、亀裂が入ったりする患者さんもあります

硬いものが普段から好きな患者さん、**食いしばりや歯ぎしりがある**患者さんです
とくに食いしばりや歯ぎしりのある患者さんは、ほとんどの場合、無意識に歯と歯が強い力で当たり合うので、**歯が削れたり、歯に亀裂が入る**などして徐々に歯が痛んでしまい、そしてあるとき、**歯が欠けたり、割れて**しまいます

上記のような症状に思いあたる飼い主さんがおりましたら、一度歯医者さんに行かれることをおすすめします

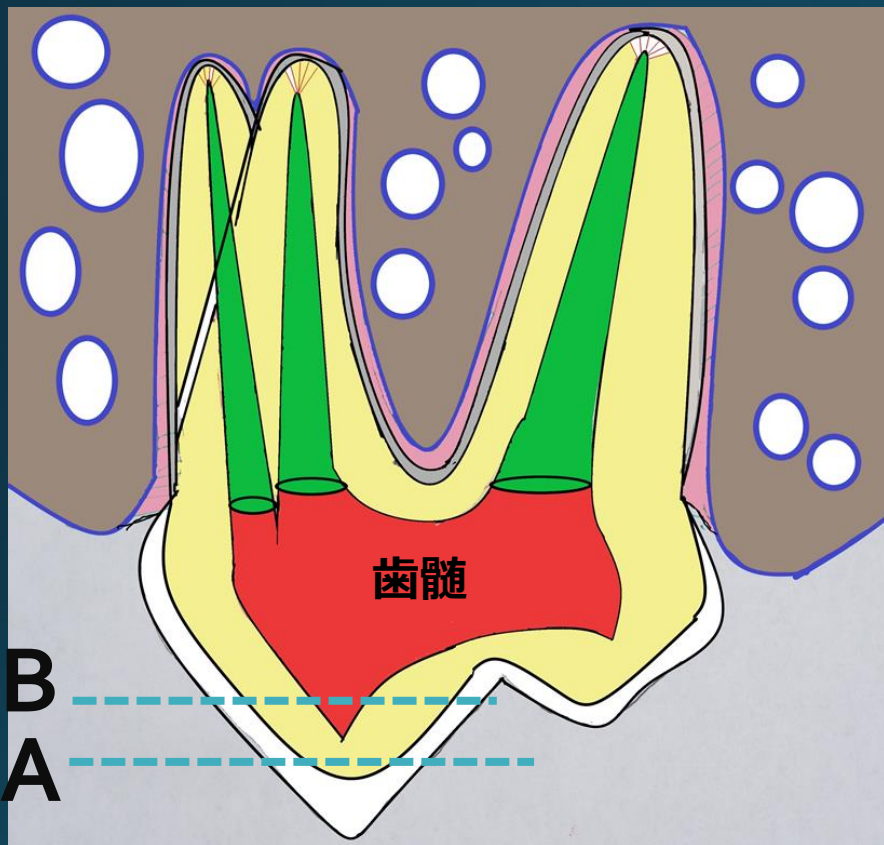
症例報告①

犬

歯が欠けた合の金属冠

(メタルクラウン) による修復

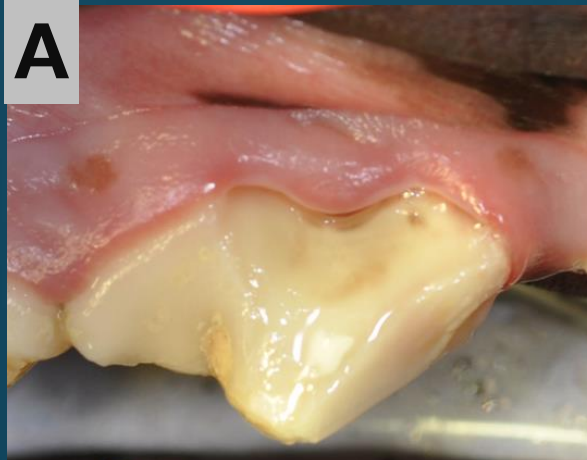
歯が欠けた場合にみられる状態の例



歯が欠ける位置

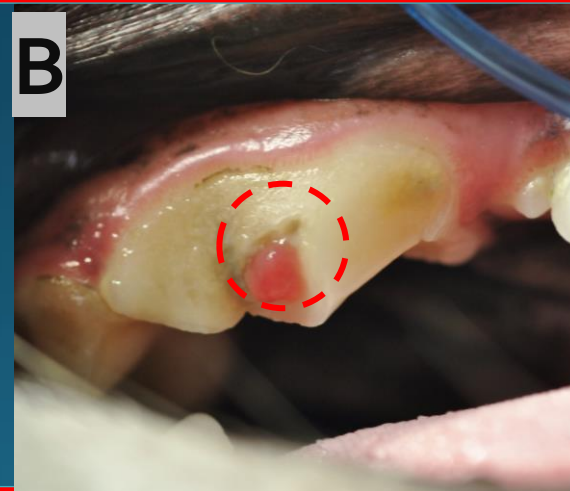
A : 表層 B : 中層～深層

A



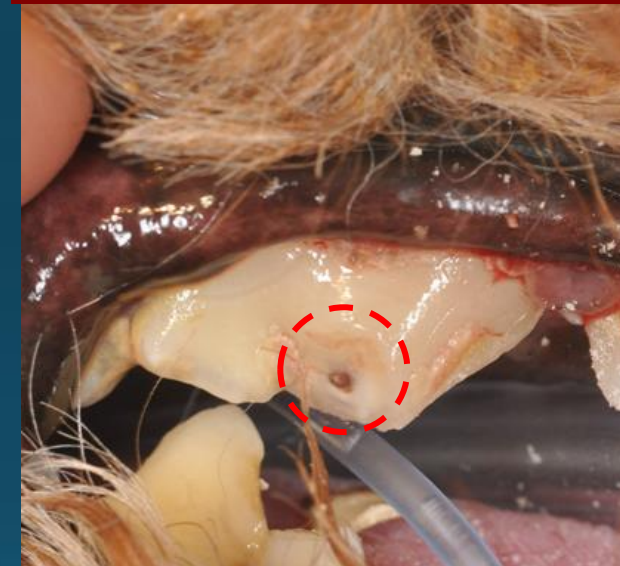
＜歯髄はでていない＞
出血なし、痛みはない場合
とある場合あり（知覚過敏）

B



＜歯髄がみえている＞
痛み、出血する 歯髄の炎症

Bの状態から時間が経っている状態



＜断面に穴が開いて黒くなっている＞

顔が腫れたり歯肉が腫れ
顔に穴が開いて膿がでる
歯髄は死んで菌が感染した状態

歯が欠けたとき、まずは歯の状態について確認

＜受傷はいつですか？＞ ➡ 新鮮か古い状態か

例：今日中、昨日、1週間前、1カ月前、半年前、覚えていないなど

＜痛がっていますか＞

➡ 歯髄が露出している可能性、歯髄が炎症を起こしている可能性、知覚過敏症状を起こしている可能性など

（上記の可能性の場合に動物が出すサインの例）

・・・歯を触ろうとすると怒る、嫌がる、食欲がない、食欲はあるが途中で食べるのをやめるなど

＜気づいたときに血はでていましたか？＞

➡ 露髄や歯髄炎の可能性、破折した破片が歯肉に張り付いて傷がついている可能性

（上記の可能性の場合に動物が出すサインの例）

・・・歯を触ろうとすると怒る、嫌がる、食欲がない、食欲はあるが途中で食べるのをやめるなど

**痛がる上記のような兆候があれば、早急に処置をしてあげるべき、
動物は我慢して痛みを耐え忍んでいます、歯の痛みは辛いのです！**

症例：右上顎第四前臼歯の破折と露髄

右上第四前臼歯が欠けて、
中の歯髄（しずい）が露出している



物が接触すると痛みがある



**歯髄の炎症による痛みをなくすには
抜歯（歯の除去）or 抜髄（歯の保存）**



＜治療内容：歯を残したい＞

- ① 除痛のため、炎症を起こした歯髄を取り除く
（抜髄：ばつずい）
- ② 抜髄した歯の内部の空所には根管充填を行う
（①②：歯内治療あるいは根管治療）
- ③ 残された歯の強度を上げるため金属冠
（メタルクラウン）を被せることとした（歯冠修復）

歯内治療後 金属冠（メタルクラウン）を装着



歯に加わる力を考えたときの 各種における防御力のイメージ

- 欠けたままの状態（未処置）
（欠けるリスク高）
- 歯科用充填レジンによる修復
（小型犬では低リスク、中～大型犬では欠けるリスク高）
- 金属クラウン（コバルトクロム合金）
（薄くても強度がある、中～大型犬の咬む力に耐えられる）
- ジルコニアクラウン
（歯の強度を超える硬さがある、厚みをもたせることで極めて強くなる）

<防御力>

弱い

強い

当院で行っている歯冠修復材料の特徴

＜充填用光重合レジン＞

強化プラスチック材料で光を当てて硬化させる光重合レジン、ヒトの臼歯など力の非常に加わる面にも使用される

しかし動物への歯科治療を想定して作られていないため、咬む力の強い中型犬～大型犬では壊れる可能性が高い

即日処置可能

＜金属（コバルトクロム合金性）クラウン＞

歯科合金類の中でも非常に硬い部類で、薄くてもある程度の強度が見込まれる、咬む力の強い中型犬～大型犬にも適していると考えられる

歯型をとり、歯科技工士さんに製作をしていただく

装着時に全身麻酔をする必要あり

＜ジルコニアクラウン＞

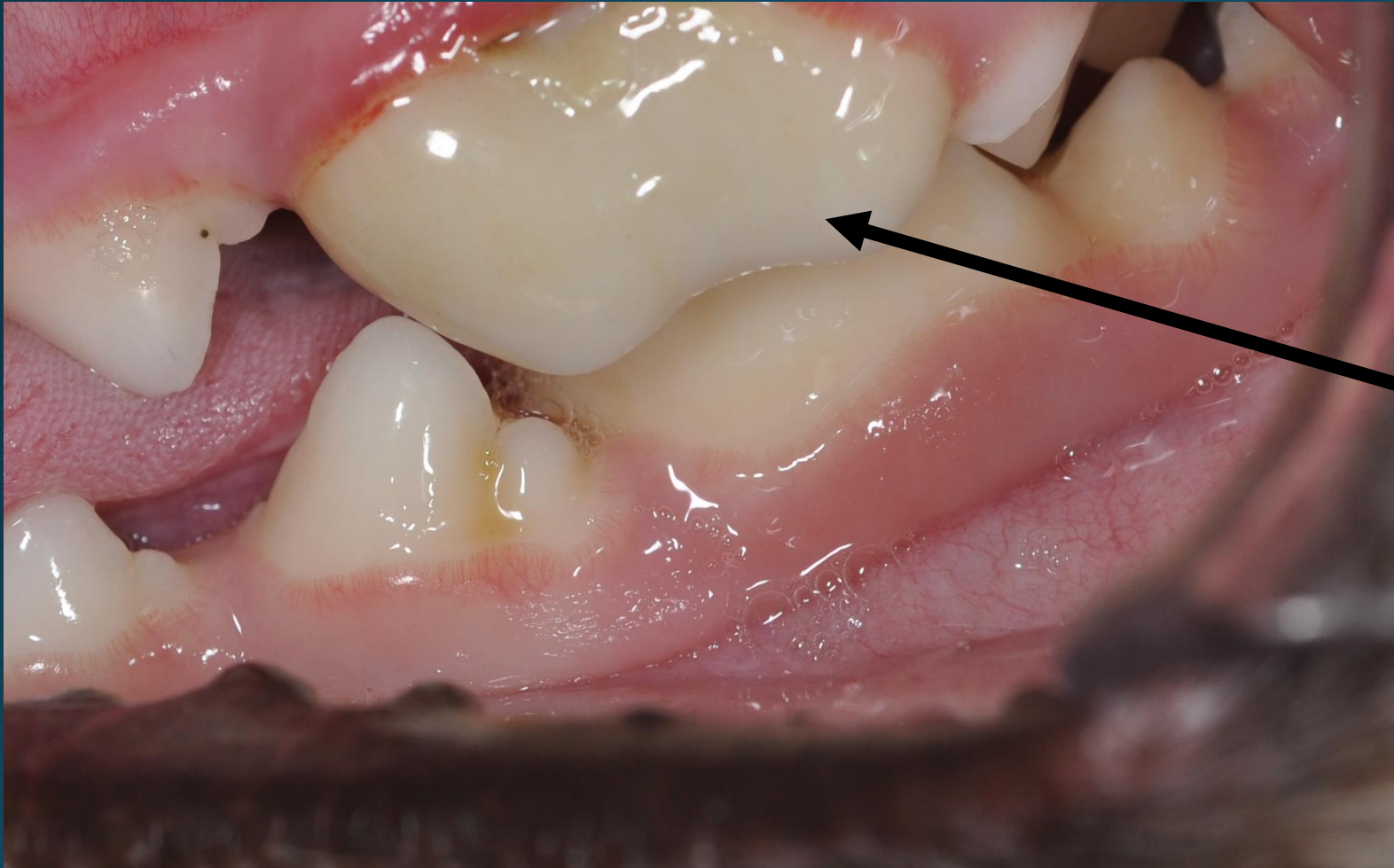
ルビーやサファイアに次ぐ硬さを誇るセラミック材料、透明性、自然色、体に優しい材料で汚れが付きにくい。

理想的材料だが、やや高価である。

歯型をとり、歯科技工士さんに製作していただく

装着時に全身麻酔をする必要あり

犬のジルコニアクラウン



この歯
ジルコニアのクラウン
です

周りの歯と調和した自然な仕上がり
ぱっと見では本物の歯に見えるくらいのクオリティー

当院における 歯科技工物のクオリティー

クラウンなどの歯科技工物は
コアデンタルラボ横浜さんの歯科技工士さんにすべてお願いしています。
人間の歯科技工物を製作されている大きな技工所さんです。

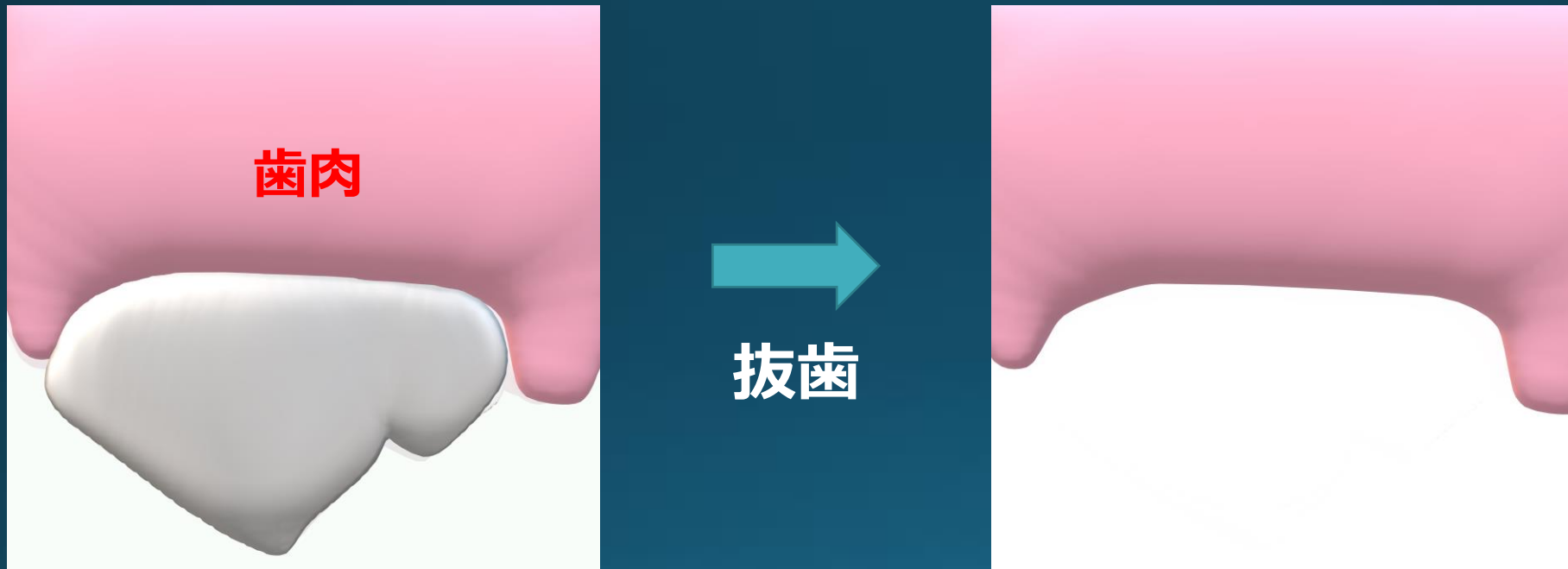
動物だからと手を抜かずに、培われた豊富な経験より
プロフェッショナルな技工物をこれまでに提供していただいております

人間の歯医者と歯科技工士だから通じるであろう
密なディスカッションを通じて、その動物に合う最適な物を今後も提供し
てまいります

症例報告①終わり

～歯は抜いたはずなのに、歯の根っこの破片が残っている？～

そもそも歯を抜いた場所ってどうなっているの？

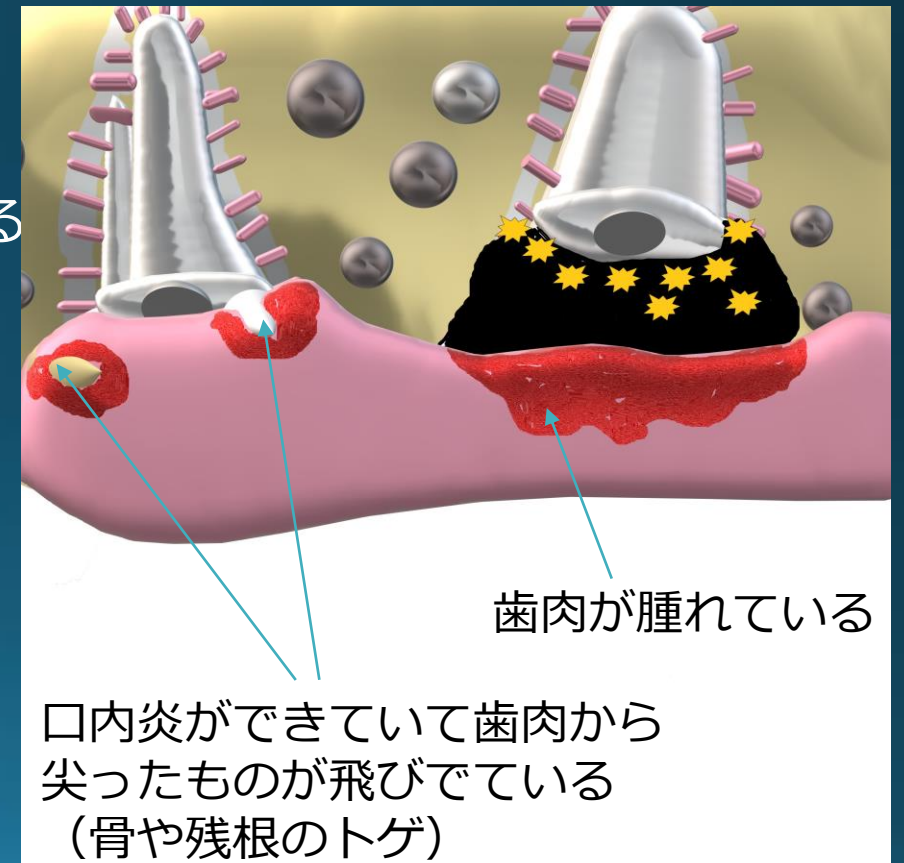


通常、歯を抜く（抜歯）と、歯肉が歯の抜けた穴を覆ってくる
昔に抜歯した部分をみると、歯肉で覆われているので
ご自身の抜歯経験あるいは、動物で歯が抜けた子がもしあれば確認してみてください

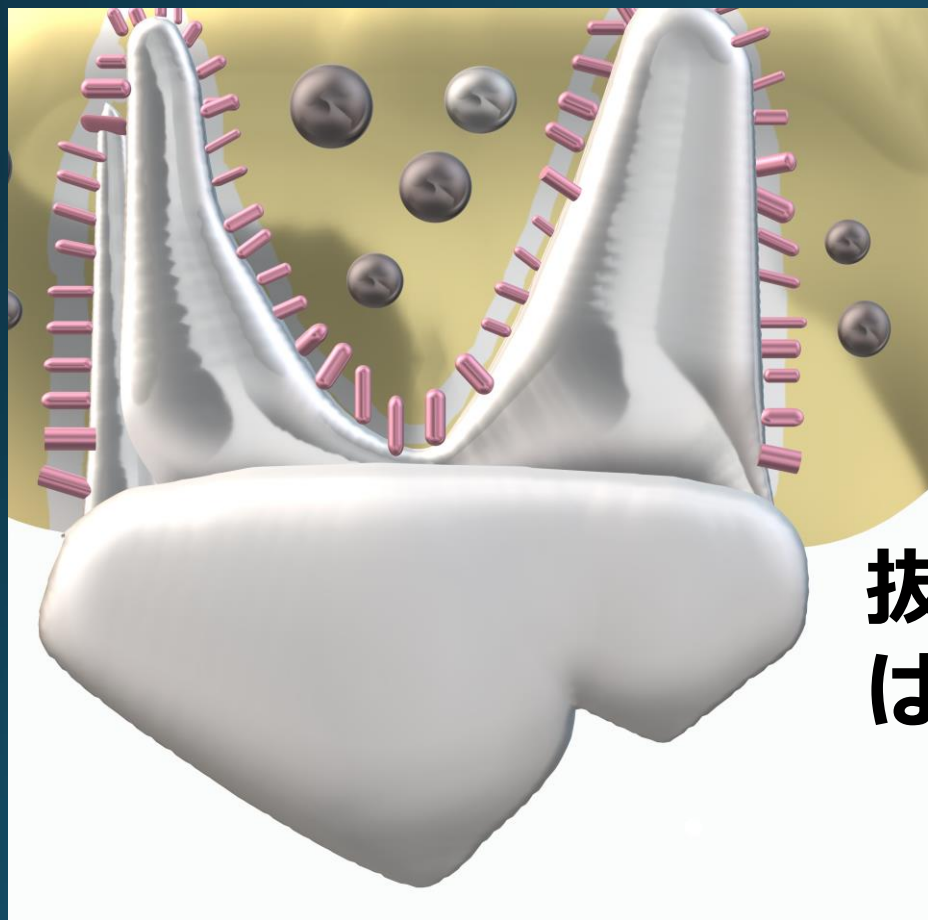
歯を抜いてしばらく経ったけど 良くならない気がします

- 歯の根っこが残っている（残根：ざんこん）
- 歯が抜けた穴の骨や残根の端が尖って歯肉を傷つけている
- 抜歯した場所が感染を起こしている（抜歯後感染）
- 抜歯した場所の治りが遅い（治癒遅延：ちゅちえん）
などを疑う

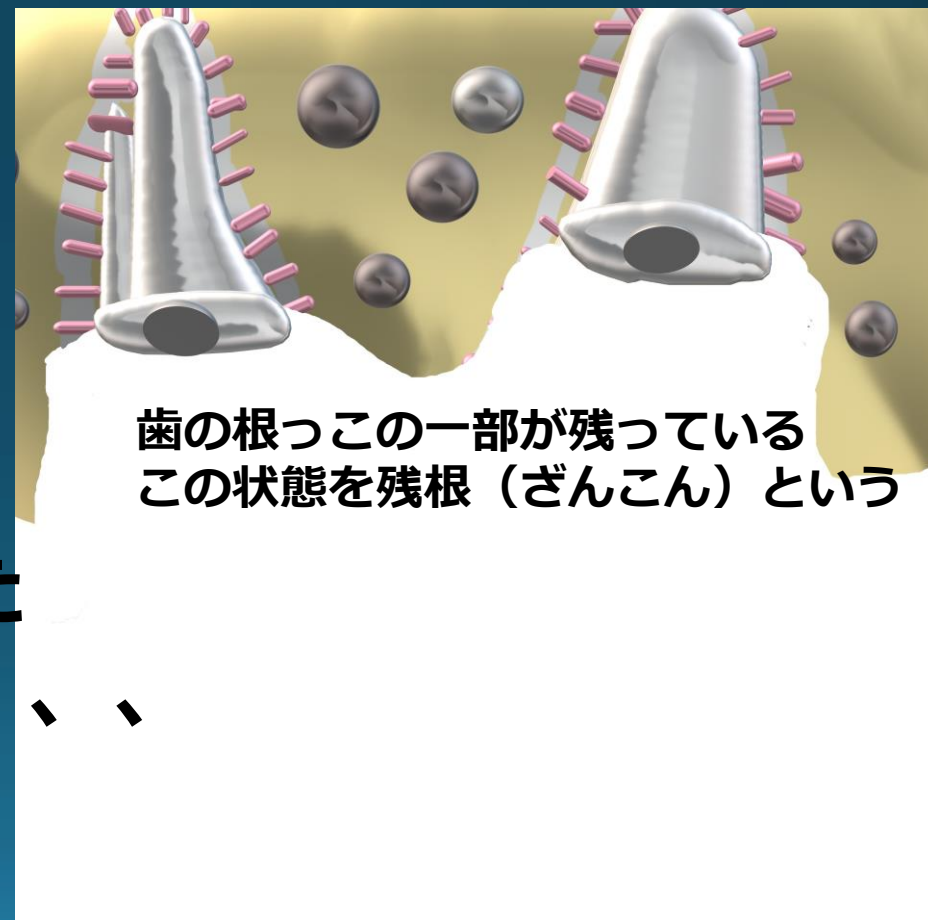
※歯を抜いたあと、歯のまわりにある骨が尖ってトゲのように
出っ張っていると歯肉をつきやぶることがあり、
露出していることで、感染を起こしやすくなる



残根ってどんな状態？

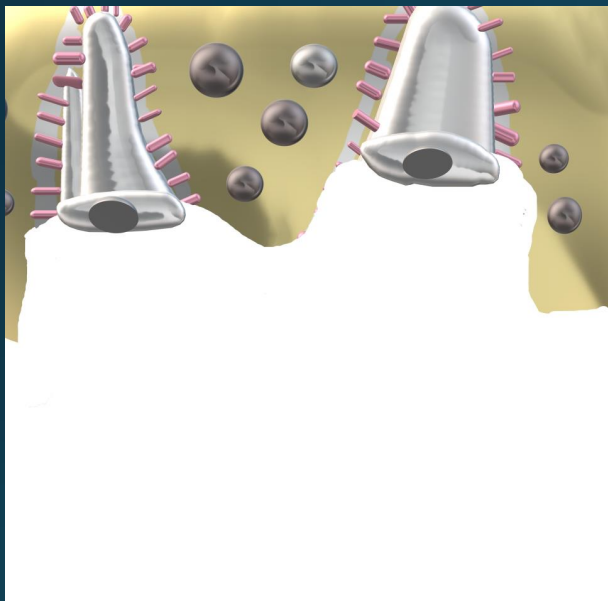


抜歯した
はずが、、

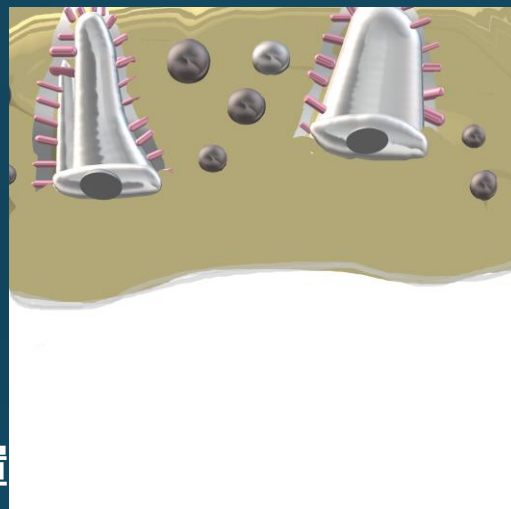
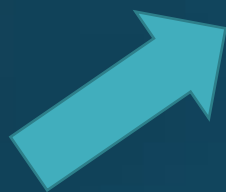


歯の根っこの一部が残っている
この状態を残根（ざんこん）という

残根が残っていても必ずしも悪いわけではない

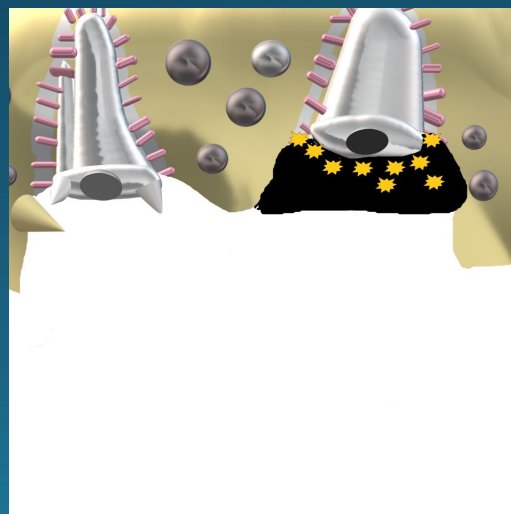


残根のまま放置
した場合



問題ない場合

残根でも感染を起こしていない
健常な状態ならば、骨と一体化して
症状をおこさないこともある



問題ある場合

歯周病など、すでに感染や炎症が残根
のまわりに起きているときには、
残根が感染異物になるため、
歯肉の痛みや腫れを起こす

残根が尖っている場合には
歯肉を傷つけてしまう

②症例報告

猫

残根（ざんこん）が関与したと考えられる
口内炎

他院にて難治性口内炎の対症療法のため、 全ての歯を抜歯された猫ちゃん



上あごの部分 見た目では歯はない
全体的にピンク色の粘膜で口内炎は目立たない
赤みのある部分の歯肉（➡）を触ると少し出血する

口元を気にするしぐさをして、
痛そうにしていると、飼い主さんから
お話がありました

猫の難治性口内炎は難治性とつくように
非常に治りにくく、よく炎症を抑えるステロイドや
免疫を抑えるような薬を使用することにより症状の
緩和をはかりますが、副作用の問題から長期的な使用
は望ましくありません

対症療法として抜歯を行うことで、
症状が軽くなることが多いとされているため口の中
全ての歯を抜歯するという治療法もある

下あごの歯肉から出血、触ると少しトゲが出ている
かのような感触で引っかかる



下あごの部分 見た目では歯はない
全体的にピンク色の粘膜で口内炎は目立たない
赤みのある部分の歯肉を触ると少し出血する

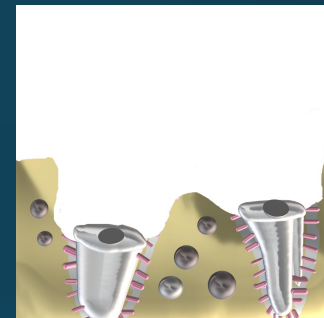
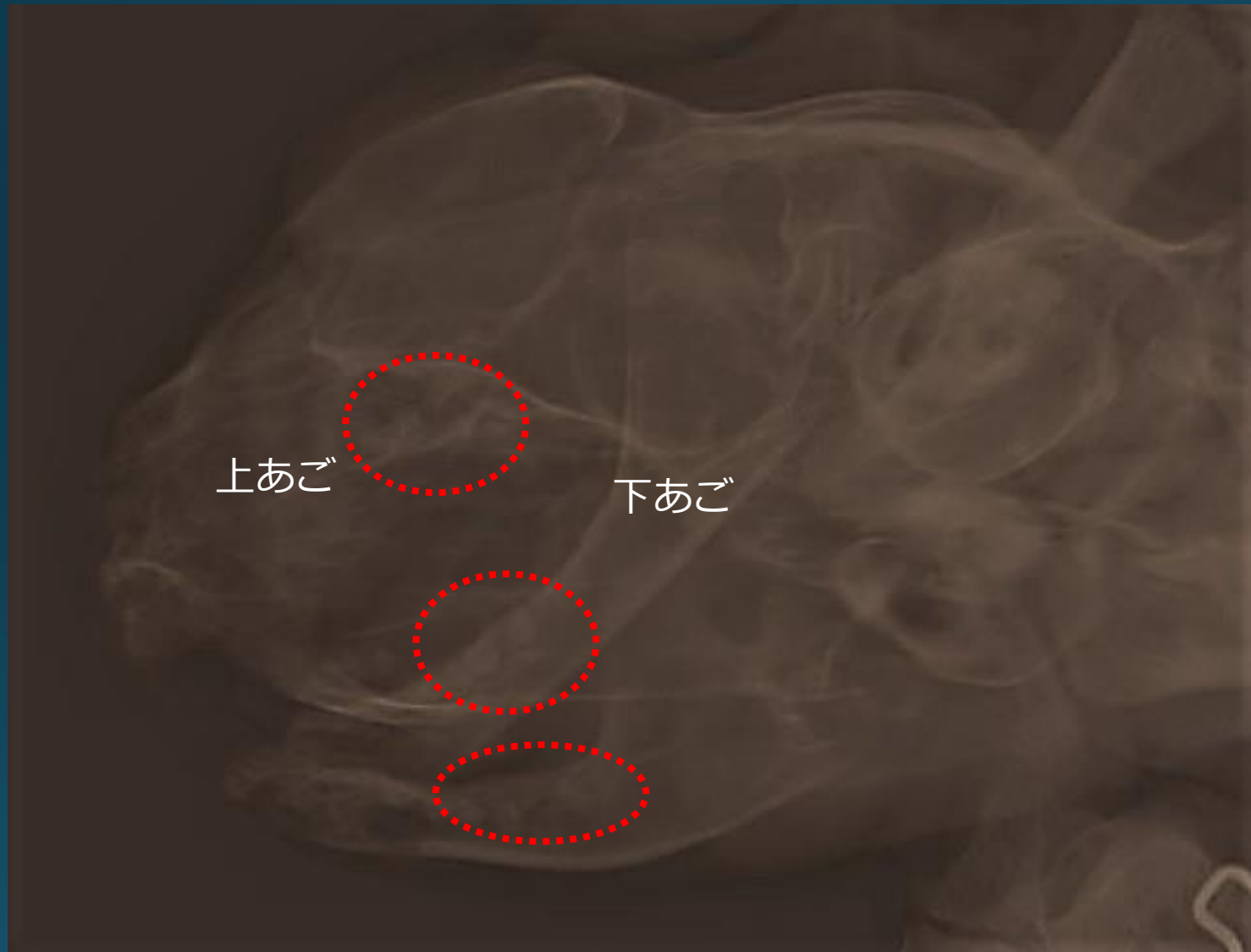
下あごも歯はない

がしかし

歯があった場所を指で触ると
少しトゲのような引っかかる感
触があった、、、

もしやこれは、、、、、、
残根??

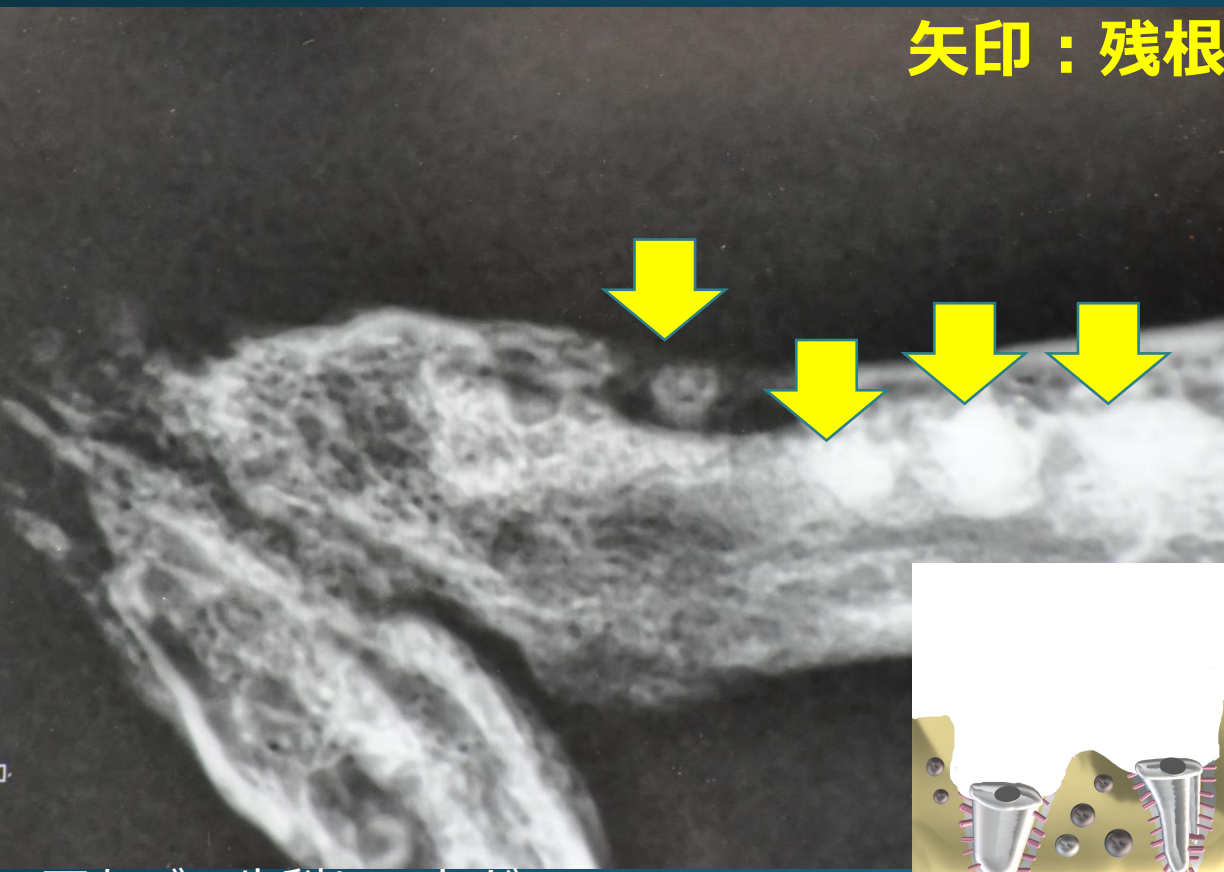
頭のレントゲン撮影



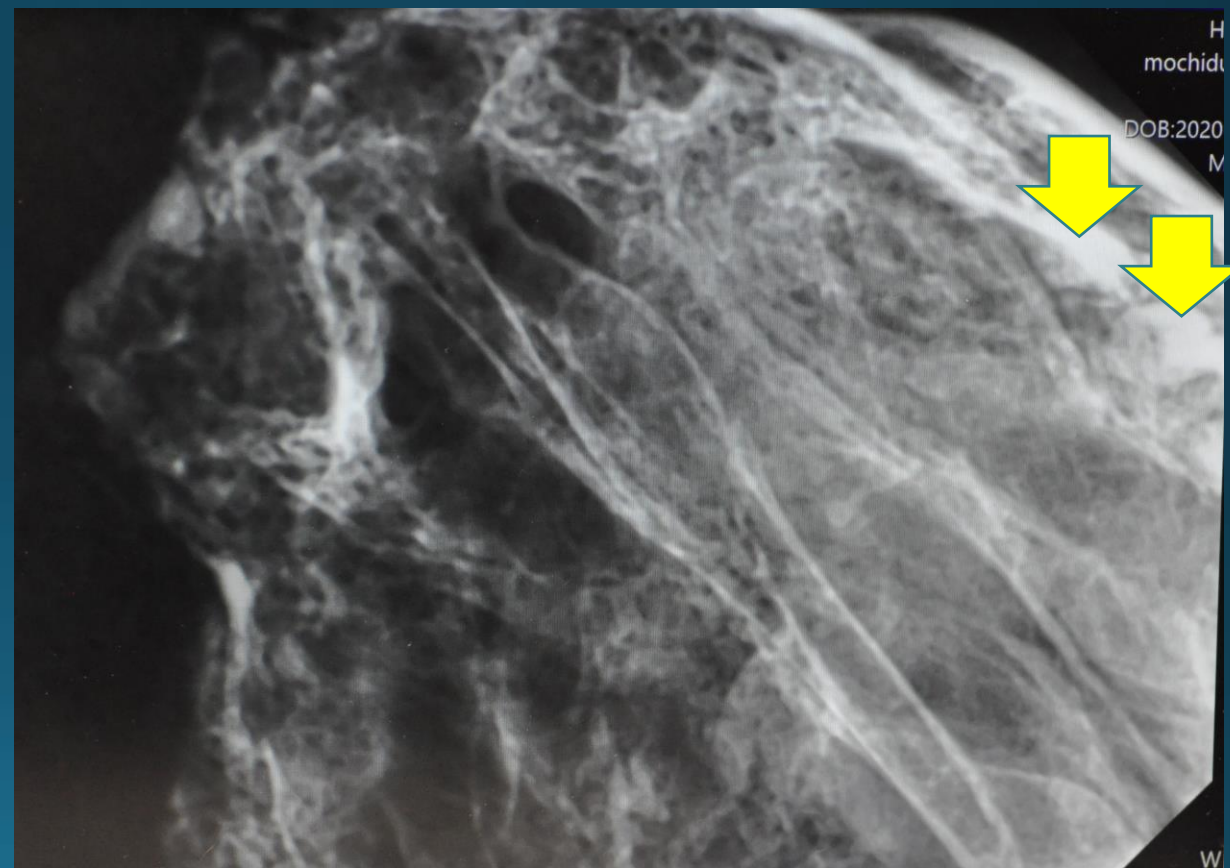
**残根の有無は
歯科レントゲンで
はっきりする**

原因は残根が関与していると結論

矢印：残根



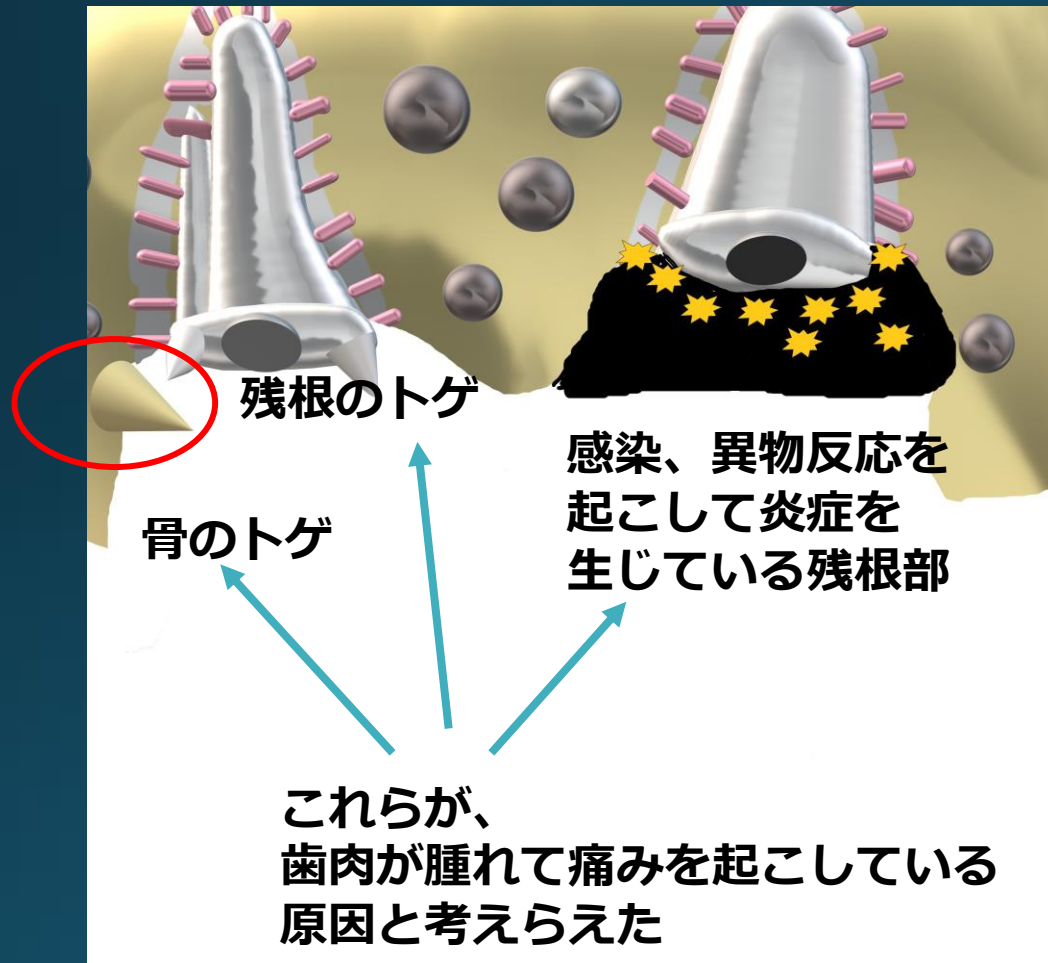
下あごの歯科レントゲン



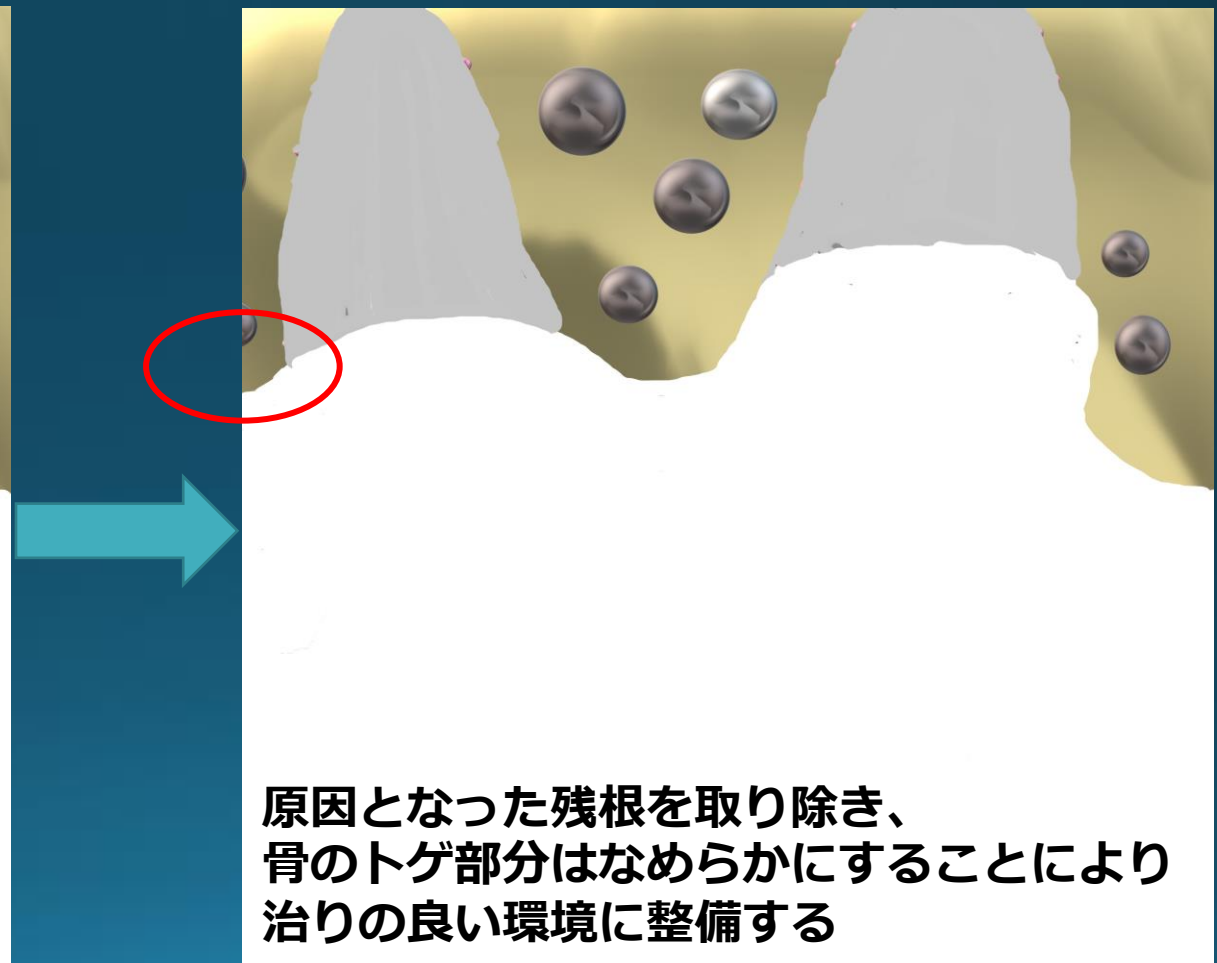
上あごの歯科レントゲン

治療：残根は抜歯し、骨のトゲを丸める

B e f o r



A f t e r



術後経過

残根抜歯後、口元を気にする頻度が減ったとの報告あり

術後 1 週間で、症状が明らかに良化傾向

猫の難治性口内炎では、抜歯により症状が全くなくなると、痛みなく、食べれるので体重も増えていくことが多いです。抜歯は猫ちゃんも飼い主さんもしんどいですが、よくなったとの報告をいただくと、これほどうれしいことはありません。

コントロール不良の口内炎に関しては、抜歯はあくまでも最終的な治療選択肢として提示することとしております。投薬などで他に打つ手がない場合には、一度当科にご相談いただければと思います

症例報告② おわり

～こんな乳歯は要注意！～

1歳を超えていて大部分は大人の歯（永久歯）に生え変わっているのに、こどもの歯（乳歯）が残っています

その乳歯、いつ抜けるんでしょうか？

ぐらぐらしていれば、そのうち抜ける可能性がありますが、、、

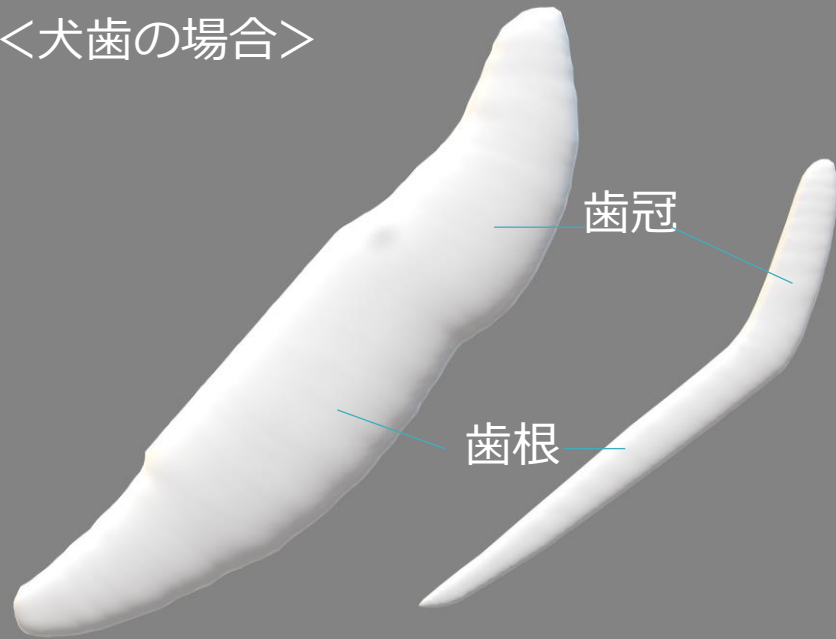
生えかわらない乳歯が残り続けていると、様々な問題が生じてきます、今回はその中でも特殊なケースをご紹介します

乳歯の晩期残存（ばんきざんぞん）

- 本来、永久歯が生え変わるうえで抜け落ちるはずの乳歯が、生え変わりの時期を過ぎても抜け落ちずそのまま生えている状態を**晩期残存（ばんきざんぞん）**という（乳歯遺残と呼んでいる場合もあり）
- 生え変わる際には乳歯は歯の根っこが溶けていき、ぐらぐらになって抜け落ちるのだが、晩期残存の乳歯はとくに歯の根が溶けずにいることがあるため、根がしっかりしており、ぐらつくことも少ない。
- 乳歯は永久歯よりも小型で細く、尖る、そのため、折れやすい
また永久歯が本来生えるスペースを奪うため、永久歯が変な向きで生えてしまうこともあり、それが原因で口の中を傷つけることがある。

乳歯と永久歯の比較

＜犬歯の場合＞



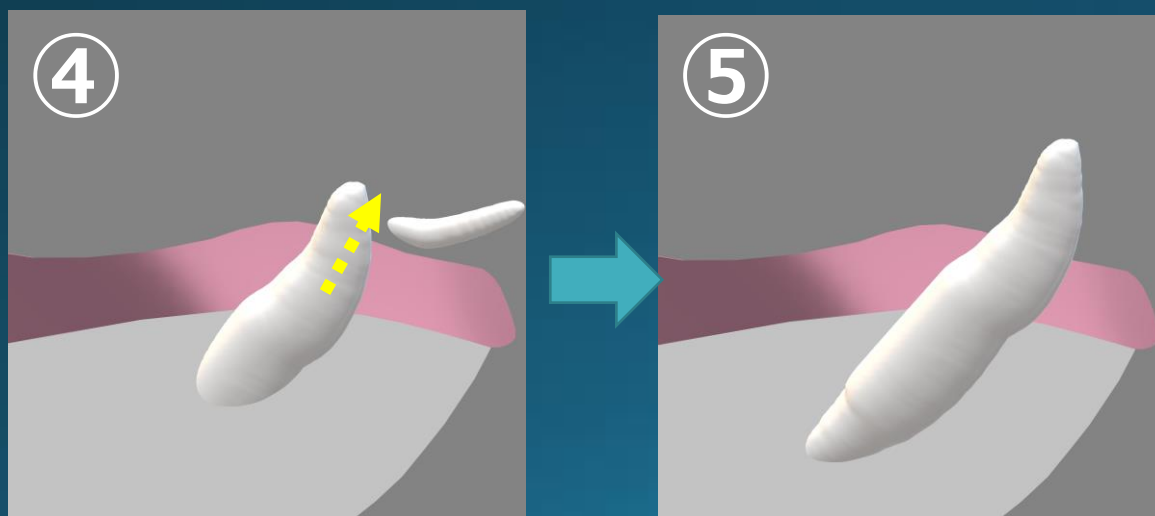
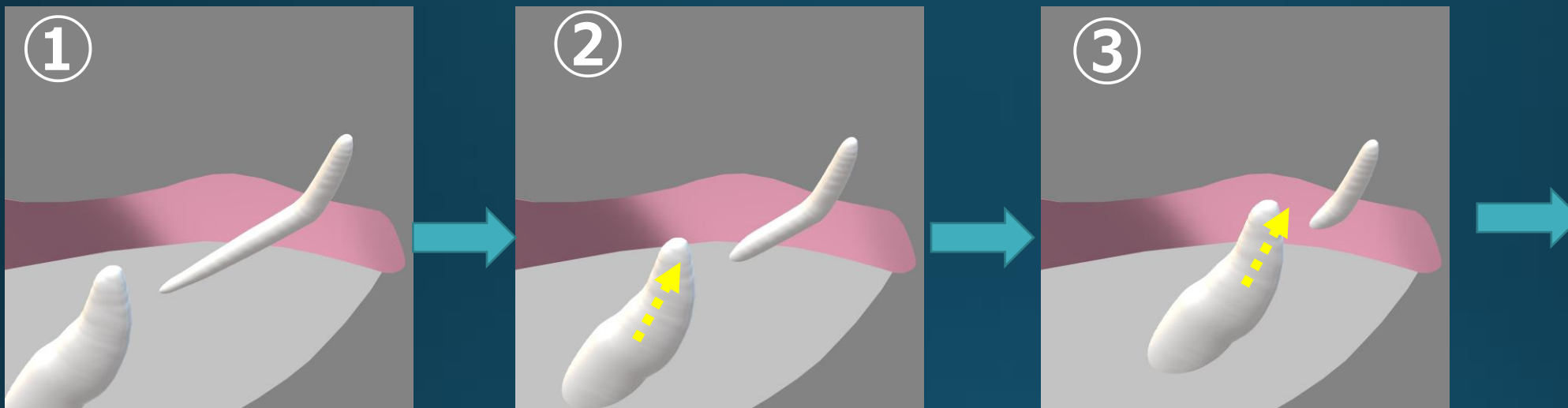
永久歯

乳歯

- ・ 歯冠（しかん）：歯のあたま部分
乳歯は細長く、先端は尖る
永久歯は太くて先端はやや鈍である
- ・ 歯根（しこん）：歯の根っこの部分
乳歯は細長い
永久歯は太い

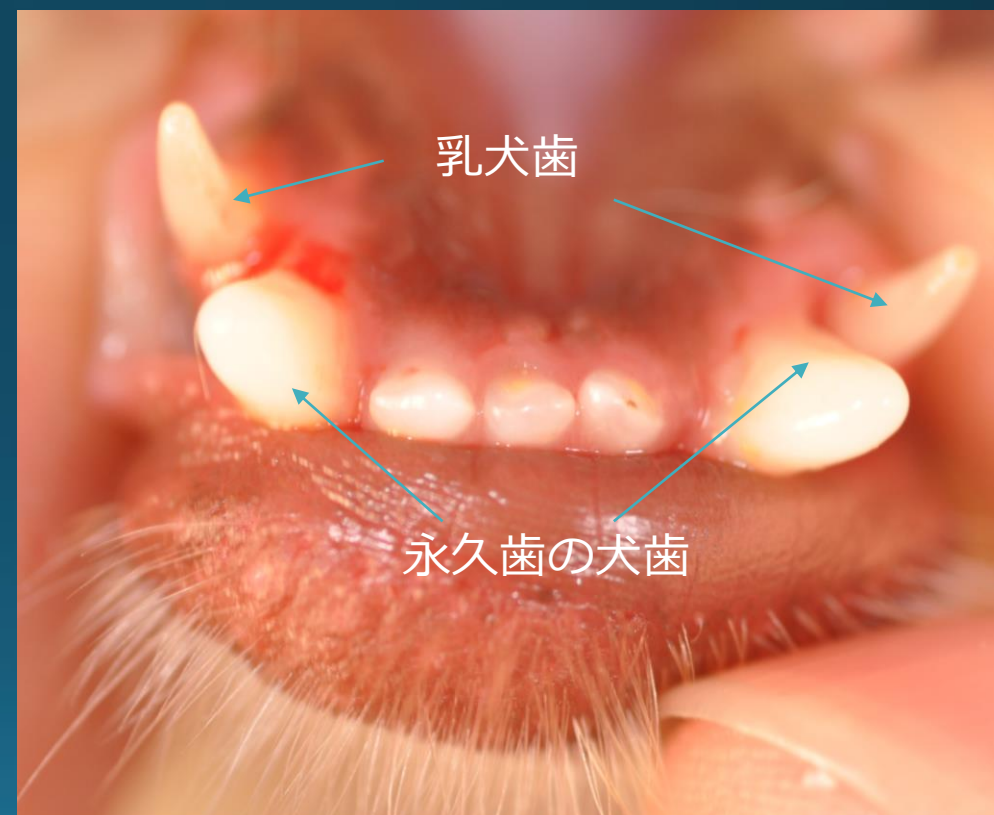
乳歯は永久歯と比べて欠けやすく、折れやすい

乳歯から永久歯への生え変わり



- ① : 乳歯が生えている時期、歯根は溶けておらず永久歯はまだ生えてこない状態
- ② : 永久歯が生えてこようと伸びてくる時期
永久歯に押された乳歯の歯根は溶け始める
- ③ : さらに永久歯が伸びてきて乳歯の歯根はほとんど溶けていき、ぐらつきだす
- ④ : 永久歯が歯肉から顔を出し、乳歯は抜け落ちる
- ⑤ : 永久歯が完全に生えきる

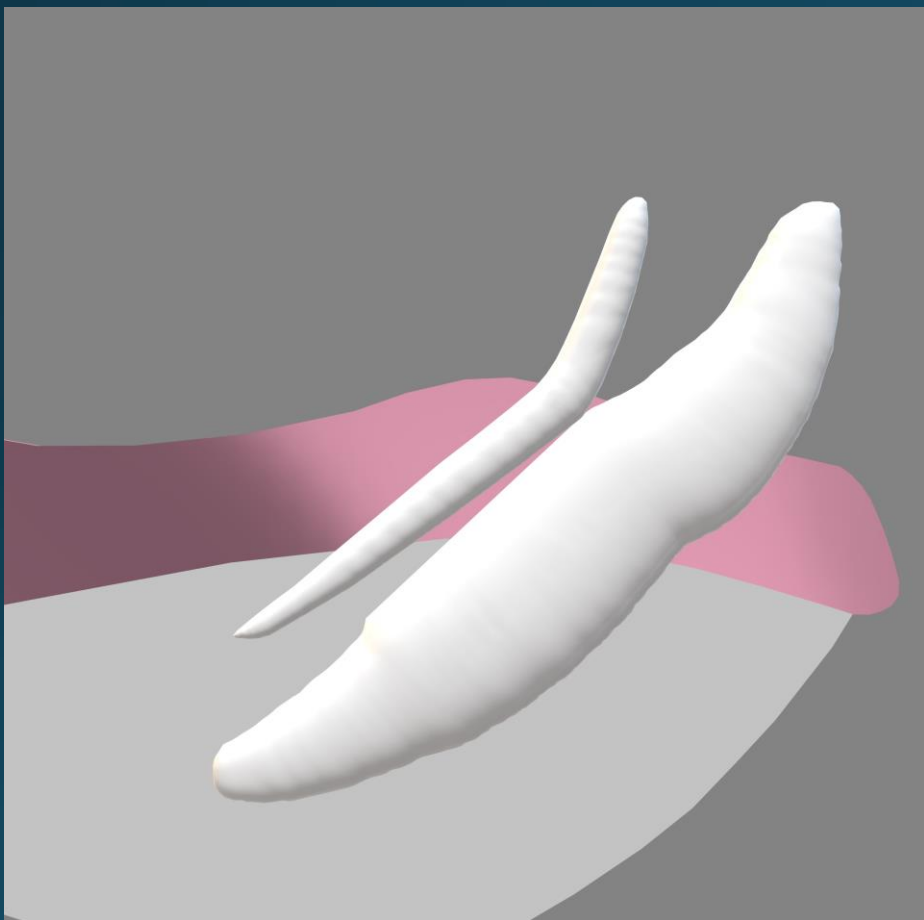
症例報告③乳犬歯の晩期残存が関与したと考えられる舌潰瘍



9歳の小型犬

下顎の犬歯の後ろに左右ともに乳犬歯がみられる

模式図で示す下顎乳犬歯の晩期残存



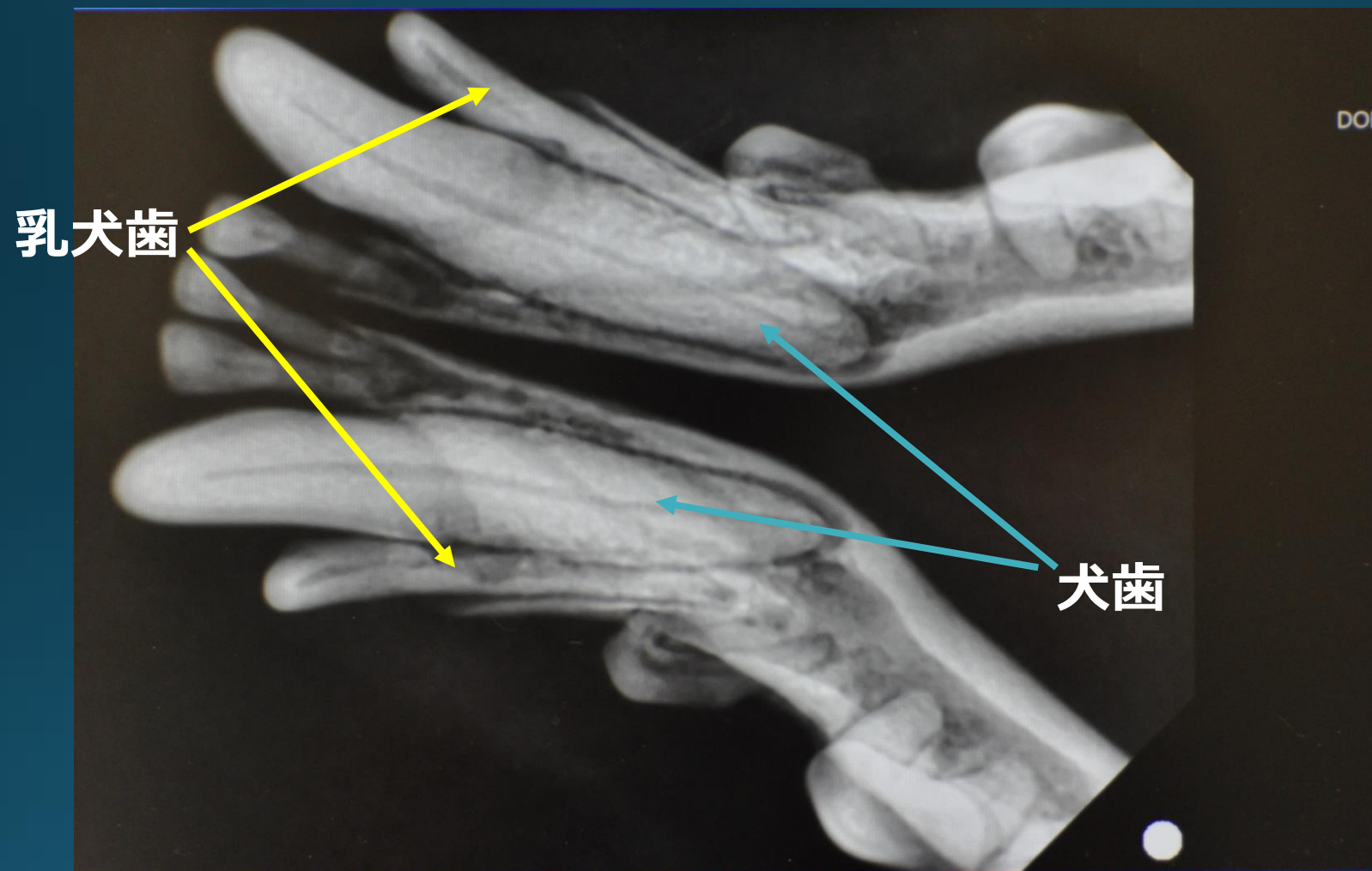
乳犬歯が抜けずにいたことで、
永久歯の犬歯が乳犬歯の前方に生えてきている状態

このような状態は小型犬に多く、

歯と歯の間が狭いので、汚れがたまりやすく、歯垢や
歯石の沈着を起こしやすいため、

歯周病になりやすくなります

歯科レントゲン写真

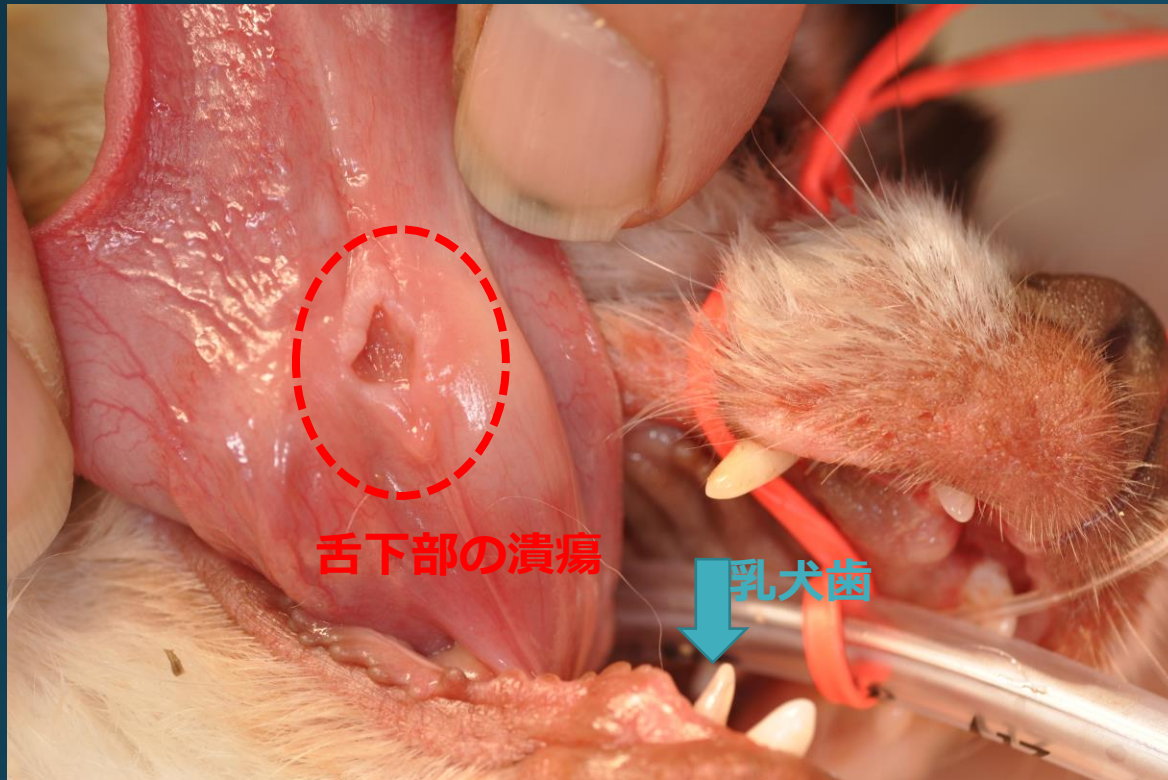


通常同じ種類の
乳歯と永久歯が同時に生え
ていることはあってはなら
ない

永久歯が生える過程で
乳歯が抜け落ちるのが自然
である

犬の乳歯は
生後半年以内に抜け落ちて
1歳には永久歯が生えそ
ろっていることが多い

舌の下側にえぐれたような場所があった



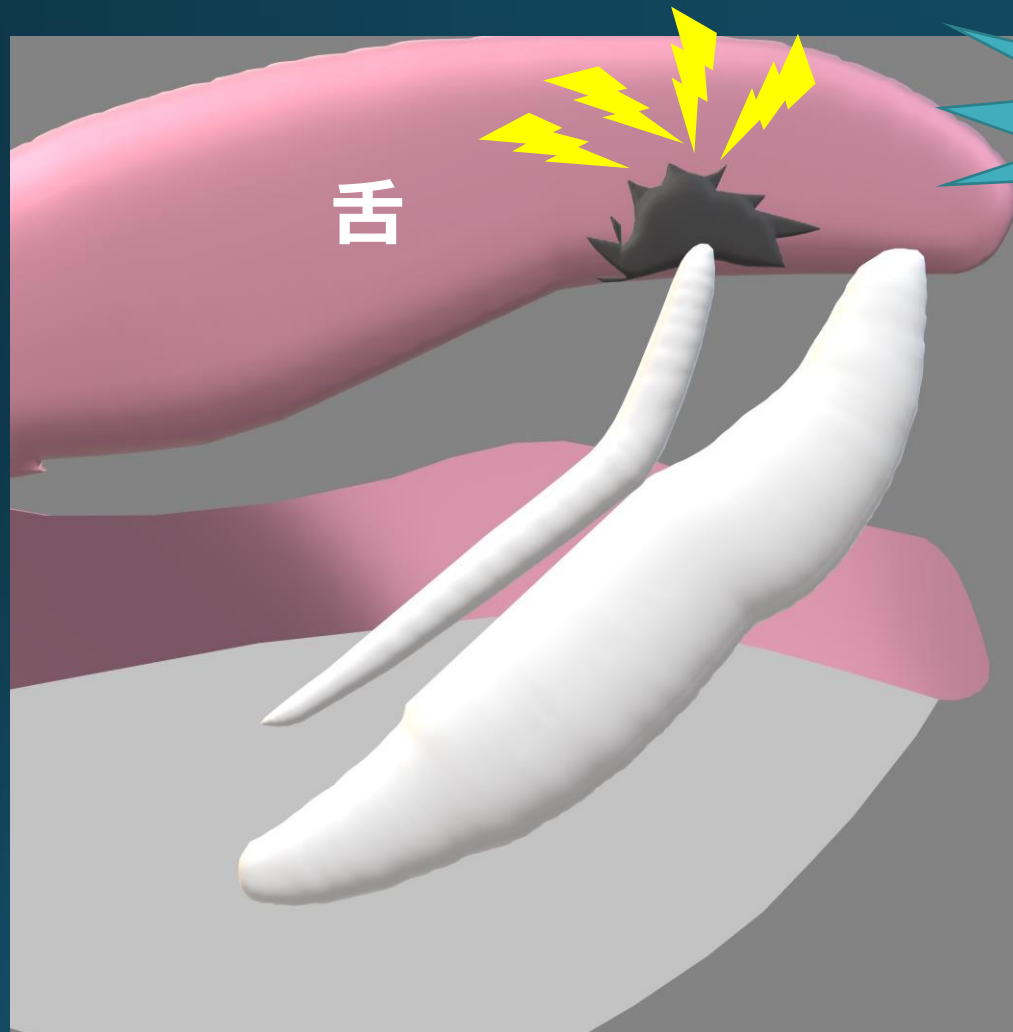
舌の下側に潰瘍があり、物理的に何かが常にあたっているような所見があった



乳犬歯は先が細く、つまようじのよう刺さる形状をしている

ここから読み解くと、、、、

おそらく乳犬歯が舌に干渉して、潰瘍ができていると考えられる



グサッ!!

乳犬歯の歯冠がつまようじの先のようにになっているため、舌を動かすたびに乳犬歯と当たる部分があり、舌の下に刺さるようになっていたものと考えられた

歯が舌に刺さるということは、通常は起こりえないしかし、尖ったものが口の中にあれば起こります

舌は柔らかく、よく動くため、口の中にとがったものがあると影響を受けやすい！

- ・舌は食事のときなどは常に動いている部分です
人間の場合にも、不適合な入歯の縁、不適合な銀歯、歯の鋭縁の部分など原因で舌と接触する部分が口内炎や潰瘍を起こすことがあります
- ・とくに人間の場合、口腔がんのなかでもほとんどを占める、舌がんはそうした刺激が強く加わる部分に発生しやすいです
- ・今回のように乳歯が関与したと思われる舌の潰瘍に関して、干渉を減らすために
今回は尖った歯の部分を丸める処置を行いました、今後は抜歯も考慮する必要があります

当飼い主さんには今回の症例を通じて、乳歯を残しておくことによる弊害として生じる症状の1つとして、これを注意喚起として他の飼い主さんにも、啓発させていただきたい旨をお伝えし、ご協力いただきました。
ありがとうございました。

おわり

今後も症例報告を通じて
動物の口の中に生じる病気、症状、治療の方法などに関して
お伝えできたらと思っております

今後ともよろしくお願いいたします